



## 必要性から始まる学び

園長 太田 伸男

小学校入学・進級まで、残りおよそ2か月となりました。年長の子どもたちは、買ってもらったピカピカのランドセルを担ぐなど、春になるのを楽しみに待っていることでしょう。待つ時間が長く、憧れが強くなるほど、実現した時の喜びは大きくなります。しかし、最近、自ら必要感をもって学ぶことが少なくなっているように思います。

学習院大学の秋田喜代美教授は、『保育の心もち』の著書で、「発達に見合う保育実践」について次のように述べています。

…早くから学ぶことがその内容への意欲や動機を奪う危険性と裏表になっていることを忘れてはならないでしょう。…

…「発達へのふさわしさ」とは、大人の側から教示するのではなく、子どもが環境に働きかけていく、子どもにとっての必要性から始まる遊びと学びです。『発達にふさわしい実践（全米乳幼児教育学会（1997年））』…



子どもたちは冬休み明けから、正月遊びを楽しんでいます。中でもすごろくは、マスに書かれた内容で勝敗が決まるので、ひらがなに興味をもち、すこしずつ読めるようになった年長さくら組に人気です。何度も繰り返して遊ぶうちに、子どもたちから「自分たちも、もっと楽しいすごろくを作りたい。」という思いが生まれてきました。

今年幼稚園であった出来事を思い出しながら、画用紙に絵を描いていきました。名札などに書いてある文字を手掛かりに、言葉を書いた子もいました。「キュウリを食べて1つ進む」「雪だるまに夢中になって1回休み」など、1年を振り返ったすごろくが出来上がりました。子どもたちは、床の上にフープでコースを作り、すごろくの紙を置きました。自分たちが駒になって、「人間すごろく」の始まりです。もっと面白くなるようにコースと紙の置き方を工夫し、繰り返し楽しんでいます。



市之瀬幼稚園では、幼稚園教育要領に沿い、ひらがなだけを取り上げた指導はしていません。遊びの中で子どもが必要感を持った時に、読んだり書いたりしています。これからも、小学校の学習を前倒しするのではなく、目の前の子どもたちにふさわしい援助を考え、必要性から始まる学びを進めていきます。